

レーザー白内障手術、レーシックの新しい技術に注目

【眼科疾患】

白内障多焦点レンズと角膜強化型レーシック

国内年間100万件以上行われている白内障手術は、常に進化を続け、より安全・正確に実施されています。一方、比較的新しいレーシックの治療技術も着実に進化。最新の治療法をご紹介します。

乱視用レンズを含め10種類以上の多焦点レンズから患者さんの眼の状態に適したレンズを選択

富田実アイクリニック銀座では、遠方と近方に焦点が合う2焦点マルチフォーカルレンズと遠方・中間・近方の3つの距離に焦点が合う3焦点トリフォーカルレンズ、全ての距離でスムーズな視界を実現したオールフォーカスレンズなど様々な多焦点レンズを導入しています。乱視に対応したレンズを含めると10種類以上の多焦点レンズを取り揃えることで、患者さんの眼の状態や生活スタイルに合ったレンズを選択することができます。



また、先進医療に対応した多焦点レンズも導入していますので、民間の医療保険で先進医療特約をご契約されている方は、手術費用の保障も受けることができ、経済的な負担を軽減することができます。

一般的ですが、日本にはそもそも屈折矯正を専門とする医師が少ないのです。

「眼内レンズの性質上、手術後に乱視が発生したり遠視や近視にいや傾くことがあります。そのため、一般的なため、屈折矯正を専門とする医師のいる病院で手術するが理想です」

受診前に、ホームページを見たり、電話で問い合わせるなどして

一般的ですが、日本にはそもそも屈折矯正を専門とする医師が少ないのです。

白内障手術で使う眼内レンズには、単焦点レンズと多焦点レンズがあります。単焦点レンズは、焦点が1カ所に定まってしまうため、日常生活でメガネが必要になりますが、公的健康保険が適用されるため経済的負担が少ないと利点があります。

一方、多焦点レンズは自費ではあるものの、遠くと手元（2焦点レンズ）、遠くと中間距離と手元

術前術後の注意事項も知つておきたい

確認するとよいでしょう。

日帰りで行える白内障手術は、安全で簡単なものと思われがちですが、よりよい結果を得るために、術前術後に注意したいことがあります。その一つがコンタクトレンズです。

「ハードコンタクトレンズを使用していると、角膜が押され、乱視があつても検査で見つけにくくなります。眼内レンズの度数は、眼の長さ（眼軸長）と角膜のカーブによって決まるので、乱視の検査が正確に行えないことがあります。術前の前1週間は、ハードコンタク

（3焦点レンズ）というように複数カ所に焦点が合い、裸眼でも日常生活が送れることから近年注目を集めています。

富田実アイクリニック銀座院長の富田実先生は、「多焦点レンズは、白内障と同時に遠視、近視、乱視も治療できますが、特に老眼を同時に治療できることが大きなメリットです。しかしその認知度はまだ低く、日本では年間100万件以上行われる白内障手術のうち、1～2%にとどまっています。また、特定の多焦点レンズによる白内障手術が先進医療に認定され

たことで、先進医療保険のある民間の医療保険に加入していると、手術費用が全額保障される場合もあります。

将来のために先進医療

（加齢）に伴つて増加する白内障は、

症状の程度には差がありますが、

70歳を越えると、ほぼ100%の方に白内障の症状が見られます。

で、将来に向けて備えをしておくことも大切です。

白内障手術のレーザー治療も進化していると富田先生は言います。

「最新のレーザー白内障手術は、

70歳を越えると、ほぼ100%の方に白内障の症状が見られます。

で、将来に向けて備えをしておくことも大切です。

白内障手術のレーザー治療も進化していると富田先生は言います。

「最新のレーザー白内障手術は、

70歳を越えると、ほぼ100%の方に白内障の症状が見られます。

で、将来に向けて備えをしておくことも大切です。

これまでの課題を克服する

レーシックの最新治療

これまでの課題を克服するため、医師も最新のレーザー白内障手術を行っています。そこで、この最新治療について詳しく解説します。

レーシックは角膜を削つて屈折矯正することによって、角膜の表面を調整する治療法です。そのため、

「術後1週間は目を触れず、洗顔や洗髪も制限され、抗生素質の点眼薬が処方されますが、これらの感染症予防対策を、医師の指示通りに必ず行いましょう。」

術後1週間は目を触れず、洗顔や洗髪も制限され、抗生素質の点眼薬が処方されますが、これらの感染症予防対策を、医師の指示通りに必ず行いましょう。

「術後の感染症発生率は、日本の場合は0・3%ほどですが、油断をすると治りにくく、細菌が増殖して目の奥まで入り込むと失明のおそれもあります」

「術後1週間は目を触れず、洗顔や洗髪も制限され、抗生素質の点眼薬が処方されますが、これらの感染症予防対策を、医師の指示通りに必ず行いましょう。」

「術後1週間は目を触れず、洗顔や洗髪も制限され、抗生素質の点眼薬が処方されますが、これらの感染症予防対策を、医師の指示通りに必ず行いましょう。」

「術後1週間は目を触れず、洗顔や洗髪も制限され、抗生素質の点眼薬が処方されますが、これらの感染症予防対策を、医師の指示通りに必ず行いましょう。」

「術後1週間は目を触れず、洗顔や洗髪も制限され、抗生素質の点眼薬が処方されますが、これらの感染症予防対策を、医師の指示通りに必ず行いましょう。」

「術後1週間は目を触れず、洗顔や洗髪も制限され、抗生素質の点眼薬が処方されますが、これらの感染症予防対策を、医師の指示通りに必ず行いましょう。」

「術後1週間は目を触れず、洗顔や洗髪も制限され、抗生素質の点眼薬が処方されますが、これらの感染症予防対策を、医師の指示通りに必ず行いましょう。」

「術後1週間は目を触れず、洗顔や洗髪も制限され、抗生素質の点眼薬が処方されますが、これらの感染症予防対策を、医師の指示通りに必ず行いましょう。」

DOCTOR



監修
富田 実先生

医学博士。日本眼科学会認定眼科専門医、米国ハーバード大学眼科最優秀論文受賞(2007年)、アメリカ眼科学会役員、国際屈折矯正学会役員理事、温州大学医学部眼科臨床客員教授、河北省医科大学眼科客員教授。